

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	コンピュータリテラシー		
英文授業科目名	Computer Literacy		
開講年度	2007年度	開講年次	1年次
開講学期	前学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-専門基礎科目-必修科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 量子・物質工学科		
担当教官名	吉田 利信		
居室	西1-516		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 主題：Problem-Based Learning (PBL) の考え方に基づき， 具体的な課題（文書作成・ホームページ作成）の解決を通して，</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オペレーティングシステムUNIXの基本事項 ・アプリケーションソフトウェアの使い方 ・情報モラル・セキュリティ <p>について学習する．</p> <p>(b) 達成目標：</p> <p>1．『課題の解決過程で必要なことを自分で学ぶ』ことができるようになる ことを目的としている，</p> <p>2．課題を解決する過程を通して， Webに用意された自習用教材や， 参考書やWeb等を主体的に活用して，</p>

課題解決に必要な以下の3つの基本事項を身につけること。

(a) コンピュータシステムやオペレーティングシステムUNIXの

基本事項を学ぶ。

- ファイルシステムによる情報の蓄積・管理
- 電子メール
- コンピュータネットワークによる情報の送受信
- 環境設定

(b) 以下のアプリケーションソフトウェアの基本的な使い方を学ぶ。

- 文書編集 emacs
- 電子メール mew
- Webページ作成 HTML
- 文書清書 Tex

(c) 情報モラル・セキュリティに関する基本的知識を習得する。

3. 課題を解決する過程で得られる作成物を

学生同士で相互に評価することで、

日本語リテラシーを高めること。

【前もって履修しておくべき科目】

なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

なし

【教科書等】

参考書：

渡邊成良・若月光夫・織田健 / 共著

「UNIX コンピュータリテラシー（第2版）」（共立出版）

杉原厚吉著

「どう書くか 理科系のための論文作法」（共立出版）

【授業内容とその進め方】

1. 授業担当教員から課題を提示する。
2. Web上の教材や参考書などを参照しながら、課題を解決する。
3. TAによる質問応答
4. 成果物に対するPeer Reviewとレポートの作成

課題について

- ・14週ある授業のうち、前半の6週は毎週課題を提示する。

これらの課題は、達成目標2の3つの基本事項

に関する課題である。

- ・後半は4週かけて行う課題を2つ提示する。

これらの課題は、学生4名程度のグループで行う。

Unix上のアプリケーションを用いて、

ホームページや文書を作成する課題である。

Webの教材構成

- ・本学ネットワーク利用ポリシー
- ・システム利用の基本事項
- ・文書の編集・日本語入力
- ・電子メール
- ・UNIXの基本事項
- ・ファイルシステム
- ・情報倫理
- ・文書の清書
- ・コンピュータネットワーク
- ・Webページの作成
- ・環境設定

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価基準(最低達成基準)

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- 1．問題解決に必要なことを調べることができる。
- 2．漢字仮名混じりのテキスト文の作成、編集ができる。
- 3．電子メールの送受信ができる。
- 4．UNIXの基本コマンドを使用することができる。
- 5．ファイルシステムを理解している。
- 6．以上を組み合わせ、

文書作成作業・Webページ作成作業を遂行できる。

7. 計算機の利用におけるモラル、セキュリティー、
ネットワーク利用ポリシーの基本事項を理解している。

8. 分かりやすい文章、分かりやすい説明について
基本事項を理解している。

成績評価方法

- ・前半の6週は、毎週の課題の達成状況に応じて毎週評価する。
週によって満点は異なるが、6週で50点満点とする。
- ・後半の課題に対しては、課題に対する取り組みの状況と成果物を
課題毎に25点満点、合計50点満点で評価する。なお、
「学生同士による相互評価」において、
他のグループの成果物に対して分かりやすい文章で
適切に評価内容を記述しているかどうか
も加味して成績をつける。

【オフィスアワー：授業相談】

適宜相談に応じるが、電子メールで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

- ・UNIXを使った経験のある人はほとんどいないので、
コンピュータに初めて触れる人も気後れすることなく
積極的に学習に取り組んで欲しい。
- ・実際にコンピュータを操作し、体験的に学習をすること。

電気通信大学 平成19年度シラバス

【その他】